

—介護の“Big Wave”を広げよう！—

# 介護ウェーブ2018推進ニュース

2018年11月29日発行 NO.8 「社会保障の解体は許さない！憲法を守りいかす社会をつくろう！！」

写真：大阪民医連提供

## ～ 各地の取り組み ～

☆ 東京民医連のいきいき福祉会では、「**当事者の思いに寄り添う**」をスローガンに、ケアマネジャーやヘルパーステーションの職員が、法人内グループホームのお誕生日会に参加する取り組みを行っています。また、11月16日には「介護の日」に合わせ職員10名が参加し、八王子駅前で署名活動を行いました。配ったチラシを読んで、署名に戻ってくる方や「私が年を取ったら頼むわね」と声をかける若い方もおり、幅広い世代が興味関心を持っていることが改めてわかりました。当日は45分間の取り組みで84筆の署名を集めました。



☆ 山形民医連では酒田市と山形市、鶴岡市で「介護の日」に合わせてアピール活動を行いました。健友会の職員10名が参加し「介護ウェーブのぼり」を掲げて酒田市内を歩く、「介護ウォーク」を行い介護の現状を訴えました。鶴岡市でも介護職員35名が参加し「介護ウォーク」を行いました。その後、市内のショッピングセンター前での署名活動を行い、159筆の署名を集めました。松柏会でも職員15名が参加し、山形市街地の中心で「2018 介護ウェーブ署名」の宣伝に取り組みました。街行く方々からも「介護保険が良くなるように頑張ってください」など声掛けがあり、介護に対する関心の高さがうかがえました。

11日には山形民医連で「**第15回ケアワーカー研修**

交流集会」を開催し、40名の介護職員が参加しました。当日行ったグループワークでは介護の仕事の「楽しさ」「やりがい」の共有と「介護の質」について考え、民医連綱領・理念・指針を深めることができました。



☆ 神奈川民医連では11月10日に「学習」「宣伝」「交流」の3部構成で行動を行いました。「学習」では林次長から「介護をめぐる情勢と介護ウェーブの課題」をテーマに講演していただき2018年改定後の介護事業の特徴や「全世代型社会保障」の問題点について学習しました。「宣伝」では横浜駅前で宣伝行動を行いました。介護職員が順番にマイクを握り**介護職のやりがい**を力強く訴えました。「交流」では法人・事業所を超え、若手からベテランまで分け隔てなく交流を深めました。





☆ 滋賀民医連 10 日に草津駅前で「**介護ウェーブ署名**  
**県連統一行動**」を行いました。当日は 16 名の職員が  
参加し、いい介護制度の実現を訴え 74 筆の署名を集  
めました。初めての取り組みとして「介護に関わるイ  
メージや介護保険制度クイズ」を行いました。



☆ 京都民医連では 18 日に 60 人を超える職員が集ま  
り「**2018 介護ウェーブ宣伝**」を行いました。宣伝カ  
ードを入れたポケットティッシュや宣伝ボードを使  
い 1 時間で 100 筆を超える署名を集めました。また、  
久世診療所では介護署名が届いた 9 月から処置室で声  
をかけるなど日々の取り組みで 570 筆を超える署名を  
集めました。



☆ 大阪民医連では 10 日に京橋と堺東の 2 ヲ所で「**介  
護ウェーブ署名宣伝行動**」を行いました。若い世代の  
署名も多く介護への関心が高くなっていることを感  
じました。



## ～ 2018 年全国介護学習交流集会 ～

11 月 18 日（日）に 2018 年全国介護学習交流集会  
（中央社保協・全労連・全日本民医連）が東京・明治  
大学で開催されました。今年は「介護保険制度の現状、  
その問題点」を踏まえ、広く「高齢者のケアのあり方」  
を考え基本的人権としての高齢者ケア保障の確立を  
展望し、その運動方向について考え、共有することを  
目的としました。2 つの講演が企画され、前半は林次  
長から「高齢者のケアを保障しえない介護保険－歴史  
と現在」をテーマに、如何にして社会保障費が削減さ  
れ社会保障の理念が湾曲されたのか、そして介護の現  
在と現政権が展望している社会保障について報告が  
ありました。

後半は「権利としての高齢者ケア保障の確立へ」を  
テーマに佛教大学の横山壽一教授より「権利としての  
高齢者ケア保障の確立へ」とテーマに講演があり、憲  
法理念に立った社会保障の原則からあるべき社会保  
障の姿が明らかにされ、「ケアの専門性」と「必要充  
足と現物給付」の前提となる二つの課題が示されまし  
た。また、「名ばかり」社会保障から「真っ当な」社  
会保障の実現のための財政課題についても、「法人税  
率を 6 年間の水準に戻す」や「所得税・住民税の最高  
税率を元に戻す」など具体的な提案も行われました。

講演後の報告・討論では「利用者の人権はだれが守  
るのか。声が出せない、意思表示ができなくても理解  
している。職員が少ないことが、現場にとっても利用  
者にとっても大きな困難をもたらしている」と当事者



の切実な訴えと政策に  
よる弊害が伺える発言  
がありました。また、  
東京民医連いきいき福  
祉会の斎藤さんから生  
活援助の問題と署名活  
動の取り組みについて  
発言がありました。

### ■ 介護ウェーブ推進本部

各県の取り組みを是非事務局まで送りください！  
全国に発信させていただきます。

担当事務局員：小又・山川

TEL：03-5842-6451/FAX：03-5842-6460

E-mail：min-kaigo@min-iren.gr.jp